

第3節 再生可能エネルギーの活用

1 地域に役立つ再エネ等の導入【環境政策課】

(1) 1市町1エネおこし

県では、エネルギー源の多角化を、地球温暖化対策やエネルギー供給力の強化だけでなく、地域経済の活性化（地域おこし）にも役立てるため、平成24年度から「1市町1エネおこし」を目標に、再生可能エネルギーの導入を推進してきました。

平成26年度は県内7つの地域（敦賀市、小浜市、勝山市、鯖江市、永平寺町、池田町、高浜町）を選定し、再生可能エネルギーの導入を検討する地域協議会の運営に対する経費や技術面での支援を行っています。また、全県的な事業化の推進組織として「ふくい まち・エネおこしネット協議会」を設置し、事業化を検討する地域協議会が互いに情報共有を図るとともに、専門家による再エネ事業化に向けた助言や情報提供を行っており、平成26年度は3回

の協議会を開催しました。

平成24～26年度までの3か年で、県内17全ての市町で、太陽光や小水力、雪氷熱、バイオマスといった地域に賦存するエネルギーの事業化に向けた検討が始まりました。再生可能エネルギーによる発電や熱利用など、様々な可能性を検討した結果、越前市の太陽光発電の公共施設屋根貸しや福井市の小水力発電など、設備導入という具体的成果も現れています。

今後も、県内17全ての市町で再生可能エネルギーが導入されることを目指し、「1市町1エネおこし」の取組みを推進していきます。

分野別施策の実施状況

地球温暖化対策の推進

1市町1エネおこし事業の取組み（平成26年度）

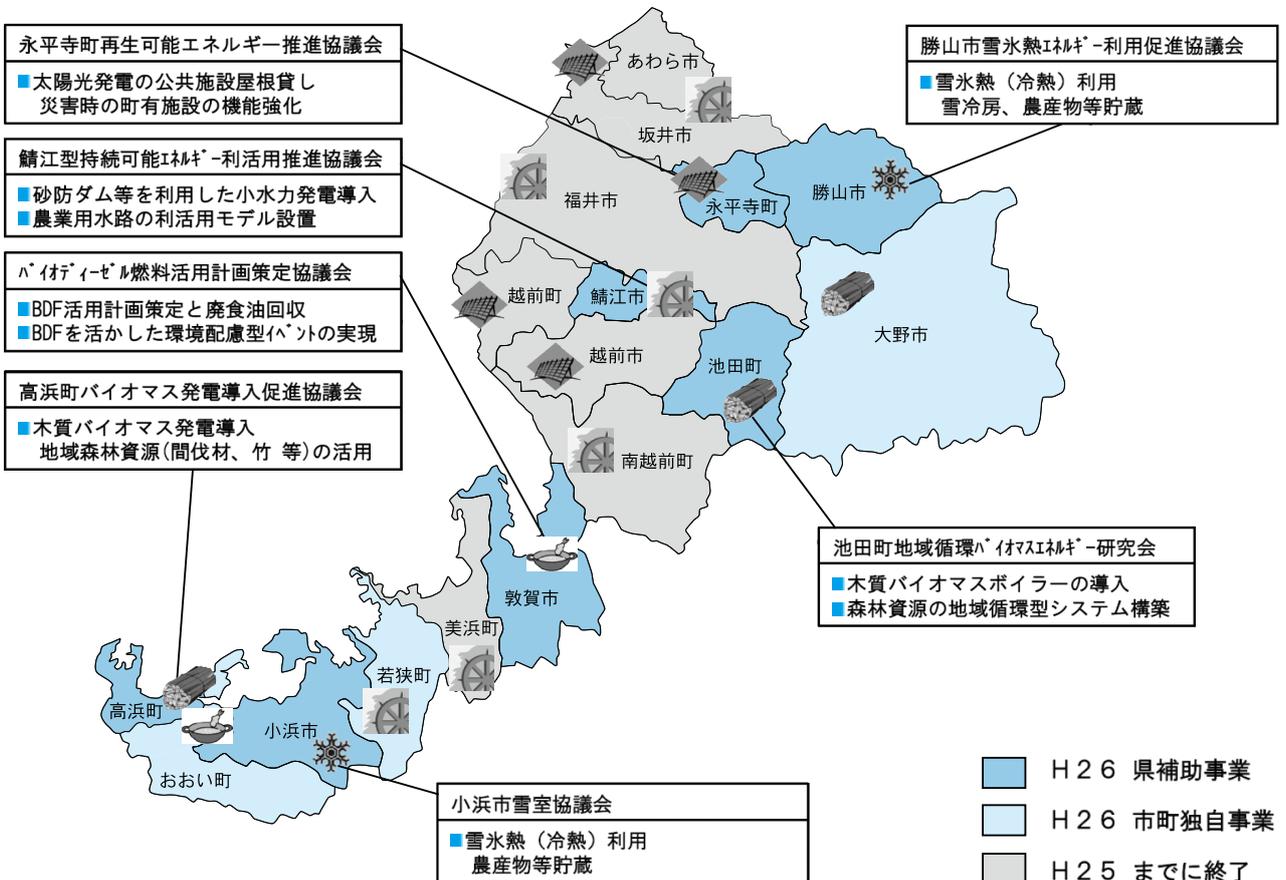


図2-3-1 1市町1エネおこしの取組み状況

◆第2部 分野別施策の実施状況

(2) 太陽光発電の設置

県では、これまでに県本庁舎（30kW）をはじめ、県内各地域の合同庁舎、県立高校（各10kW）や県若狭湾エネルギー研究センター（20kW）など26の県有施設に、平成25年度末で、合わせて約770kWの太陽光発電設備を率先して導入しています。また、「1市町1エネおこし」プロジェクトにより越前市において導入検討がされていた公共施設の屋根貸し事業でも6か所・243kWの太陽光発電設備が導入されました。



敦賀工業高校太陽光発電

また、民間での導入拡大に向けて、市町と連携し、住宅用太陽光発電設備*¹の導入助成を、平成25年度は1,105件行いました。

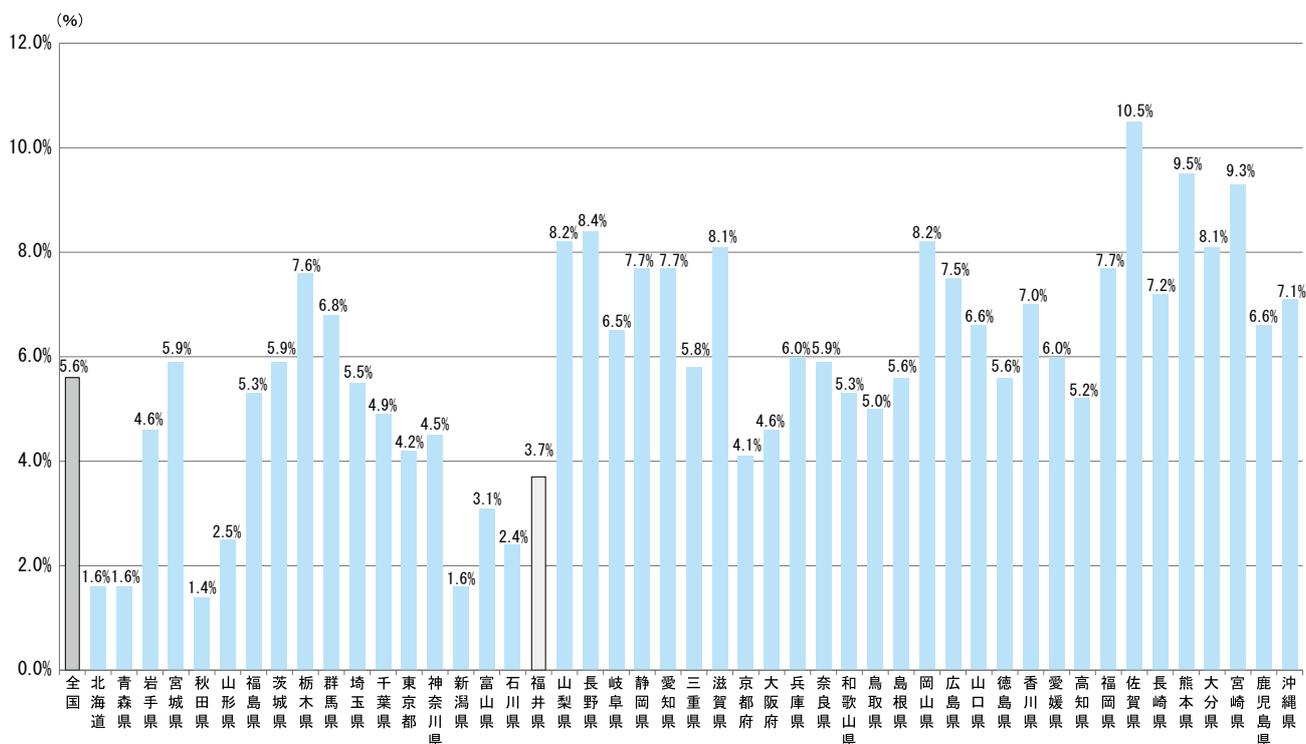
さらに、北陸電力株式会社および関西電力株式会社等のメガソーラーの導入や、各市町においても、国の導入補助制度や、北陸電力株式会社および関西電力株式会社のグリーン電力基金等を活用して、小中学校や公民館などに、太陽光発電設備を導入しています。

これらを含めて、平成25年度末までに県内に設置された太陽光発電設備の総出力は、約34,500kWとなっています。

（資源エネ庁 固定価格買取制度 設備認定容量）

表2-3-2 主な県有施設の発電状況（平成25年度実績）

地区	施設	出力 (kW)	総発電量 (kWh)	日平均1kW当たり発電量 (kWh)
福井	県本庁舎	30	約33,000	約3.0
奥越	奥越合同庁舎	10	約7,500	約2.1
若狭	若狭合同庁舎	10	約11,400	約3.1



（注）中国経済産業局による集計

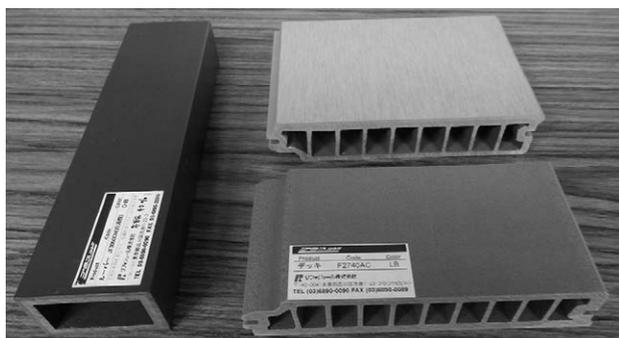
図2-3-3 住宅用太陽光発電導入率（平成25年度末）

*¹住宅用太陽光発電設備：出力3kWシステムを南向きなどの好条件で設置すれば、年間3,000kWh程度を発電します。

2 木質バイオマス^{*1}の有効利用【県産材活用課】

環境負荷の少ない低炭素社会を構築していく観点から、林地に残った間伐材や製材工場から排出される端材・木屑などの未利用木質資源を有効に利用していくことが求められています。

県では、坂井地区の森林組合と県内の企業が連携し、間伐材を利用した木質ペレットやウッドプラスチックの原料となる「木粉」の製造施設を「バイオマスエネルギーセンター」として整備を行い、平成25年4月から生産を開始しています。



木粉を混入した製品

また、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入を受け、全国各地で木質バイオマス発電施設の整備が進められております。

本県でも、大野市で間伐材等を燃料とする木質バイオマス発電施設の導入が決定し、平成28年度の稼働に向け準備が進められています。

県では、発電用燃料となる間伐材の安定供給体制を整備するため、効率的な搬出技術の開発や搬出技術取得に向けた研修会などを実施しています。

さらに、近年、薪ストーブへの注目が高まっていることから、林地残材を利用して薪を生産する森林所有者等の団体を育成しています。平成26年度現在、4団体を育成し、搬出機械や薪割り機の導入支援等、薪の生産・供給体制の整備を進めています。



薪の販売所



薪生産団体の活動

コラム 木質バイオマス発電施設の概要

- ・建設場所は大野市七板（敷地面積31,000㎡）
- ・発電規模6,000kW級（約1万世帯に電力供給可能）
- ・発電用燃料として約12万㎡/年を使用
（内訳 間伐材：6万3千㎡/年 製材端材等：5万7千㎡/年）
- ・平成26年11月着工、平成28年4月稼働予定



木質バイオマス発電施設（予定）

^{*1}木質バイオマス：「バイオマス」とは、生物資源（bio）の量（mass）を表す言葉であり、「再生可能な、生物由来の有機性資源（化石燃料は除く。）」のことをいいます。特に、木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」といいます。木質バイオマスには、主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する端材やおが屑などのほか、街路樹の剪定枝や住宅の解体材などの種類があります。